

令和3年（2021年）はいかなる年か

「六白金星・辛（しん・かのと）・丑（ちゅう・うし）・壁上土（へきじょうど）」

カネダ株式会社 代表取締役副会長 金田康男

カネダ(株)金田副会長による恒例の今年の「いかなる年か」をご紹介します。

- ◆ 本年は「六白金星」が中宮に入り「六白金星」の象意が各方面に強い影響を与える年となる。
- 「六白金星」は、季節では「秋～冬」にあたり「収穫を終え太陽も役割を終えた」時となり、「完成、円熟、熟成、老成」を意味する。
- 「六白金星」の定位は易の「乾」にあたり「乾」は「全陽」であり、「天上天下」を意味し、高天で広く明るく活動して止まない形を意味する。
- 「六白金星」の象意は「天・米穀・活動・資本・収納・堅実・急進」また、「政権・大企業・証券」となる。
- 「中宮」にある時は過去九年間の総決算の年、諸事答えを求められる年、次の九年間の過ごし方を考える年と言われている。また、吉凶が強く顕在化する年であり、特に今年は企業の星である「六白金星」がこの中宮に入るため過去九年間これまで努力してきた企業は吉となり、努力が不足していた企業は凶の面が強く現れる。
- 「天」は「父」や「組織の長（リーダー）」「権力者」「主人」「経営者」を表す。また、中宮は「五黄土星＝革命・破壊・壊乱の星」の定位であるため政治的に、社会的に、経営的に不安定な厳しい状況が生じ、変革を求められる。それに対応できない時は天下が乱れ、政権交代やトップ交代にもなりかねない。
そのため今年は総理大臣や経営者などトップの実力が試される年となる。
- 今年は「巽宮・東南」が「五黄殺」となり、「乾宮・西北」が「暗剣殺」となる。また、「歳破」が裏鬼門の「坤宮・未（西南）」に来るので、これらを「東南・西北・西南」の方位は要注意。
- 今年の「恵方」は「離宮・丙（南）」の方位となるため「南」が吉方となる。
- 「金融・経済・社交」の星である「七赤金星」が「暗剣殺」となり、また「停滞、変化変動」の「八白土星」が「七赤金星」の定位の「兌宮」に回座するため今年の経済・金融はかなり厳しい状況が続く変化変動の激しい年となることが考えられる。
- 「暗剣殺」に入る「七赤金星」は「遊興・娯楽」の星でもあり、今年はこれらに関連する事柄も盛り上がりたであろうことが予想される。
- 「中小企業・庶民・大衆」を意味する「二黒土星」の定位「坤宮」（裏鬼門）に「裏切り」の象意をもつ「歳破」が在泊し、「社会の星・顕現の星」である「三碧木星」がこの坤宮に回座するため、中小企業の窮状が明白となり、また、中宮にある「六白金星」には物価高騰の象意もあるため庶民の暮らしや経済は相当の厳しさが予想され社会が不安定になることが考えられるので凶悪犯罪やテロにも注意が必要な年となる。
- 「六白金星」には「証券」という象意があり、企業業績も過去9年間の努力の成果により善し悪しが分株式もその業績を反映すると考えられるが、「六白金星」の定位の「乾宮」が暗剣殺となり、また、「株式」の象意のある「九紫火星」が鬼門の「艮＝変展宮」に入るため、証券業界

の諺に「丑は躓く」とあるように今年の証券や株式は全般的には厳しい局面が続くと考えられる。

- 「不動産」の象意である「八白土星」の「艮＝変展宮」の位置（鬼門）に「顕現の星」である「九紫火星」が入るため不動産のトラブルが表面化する可能性があり、口車に乗らないように要注意。
- 「風・貿易・交流・遠方」の象意をもつ「四緑木星」が「震宮＝躍展宮」に在泊する。「震」は「雷」の象意もあり「活発・騒々しい」という意味がある。そのことから良し悪しは別として外交、海外交流、貿易が活発化あるいは騒々しくなる可能性がある。
- 中宮の「六白金星」には「肺」という象意があり、また、風邪、呼吸器の象意をもつ「巽宮」が「五黄殺」となり、「口」という象意を持つ「七赤金星」が「暗剣殺」となるため新型コロナウイルスパンデミックの収束は難しいと思われる。
- 「口」の象意の「七赤金星」が「暗剣殺」にあり、「腐敗・停滞」の象意をもつ「八白土星」が「口」を意味する「兌宮」にあるため飲食関連には厳しい年となると思われる。また、食中毒にも要注意。
- 「六白金星」は「父・年長者」そして「幼児」の象意もあるので今年は年長者の意見を取り入れ、幼児とのコミュニケーションを図り焦らず慎重にものごとを進めると良い。
- 「六白金星」には「精神的な始まり」「急進」という意味もあり、新しいアイデアやシステムなどのソフト面での新しい時代が急速に始まり、また、専門的分野での新開発や新発見の可能性が大となる。ただし、「雷・電気」の象意の「三碧木星」が歳破のいる坤宮にあるためシステム障害や火災も含む電気の障害などに要注意。
- 「天・空・機械」の象意の「六白金星」が中宮にあるため航空機や車両、機械の事故が多発する可能性があるので要注意。
- 納音の「壁上土」は大地の力と繋がっていない土の状態で本来の土の力ではなく壁土でしか用をなさないという意味であり何かと不安定な年となりそう。

本年の社会・経済について

- ◆ 「辛」は「下に伏在していたエネルギーが矛盾、抑制を排除して上に発現する」という文字であり、そこに矛盾、闘争、犠牲、殺傷を含むため「つらい・からい」ということも出てくる。前年の「庚」を受けて「更新することを断固として実行してゆかないと、必ず殺傷を含む、からい目、つらい目に遭う」となり、下からの突き上げによる不祥事が発生する可能性あり。また「辛は新なり・万物が一新する」といわれるように「草木が枯死して新しくなろう」とする意味をもつので自分の心を更新していかねばならない年となることを深刻に受け止めねばならない。
- ◆ 「丑」は「ことをはじめようとする」義を表し「はじめ」と読み、「丑」は「紐」で結ぶの意、また養うの意もある。前年に生じた事件や人がそれぞれ相謀り、相結んで事を始めようとするがその力はまだ弱く、上に立つものがこの時期の形勢と人間をよく省察し、計画政策をよく吟味して後々に誤らないようにしなければならない。そのためにも「自ら省みる」ことが大切。
- ◆ 「丑」は「変化することで進化する」という意味をもつ。芽が伸びようとするが外界の抵抗により曲がりくねった状態でも何とか伸びようとする様子を現わし艱難忍苦の姿でもある。今年の政治や社会、経済は下からの突き上げも厳しくなり新しい時代への変化・進化するための産みの苦しみを味わう厳しい年となることが予想されるため、他人任せであってはならない年である。

る。

- ◆「六白金星」には「権力争い」の象意があり、諸国において政権争いが発生し、テロや内戦などの過激な方向へ発展する可能性がある。
- ◆「六白金星」には「戦争」という象意があり今年の「歳破」が西南にあり東シナ海や南シナ海で紛争が発生する可能性がある。また、西北が「暗剣殺」となることから西北の方位から何らかの災いがくる可能性がある。

◆今年の高島易断

- 本卦は「山澤損」・「下は損を破り上は潤う」と意味であるが「損して得取れ」のように、目先の損に怒らず我慢するところは我慢していれば得へと繋がると意味もある。逆に目先の利益に拘れば損を被るという意味にもなる。また、次の飛躍のためにエネルギーを蓄えるの象でもある。
- 経済面は「坎為水」・これは乗り越えることは困難を意味する。無謀を避けて難しい時はじっくりと構えるのが良い。
- 社会情勢は「雷風恒」・困難な経済情勢や社会情勢が続くということになりそうであるが環境は変化しても目的に変化はないということ。
- 政治情勢は「水風井」・「人のため、国のため、世のため」に政治をおこなわなければならない年、「自助・公助・相互扶助」が必要とされる年となる。

◎いずれにしても今年は派手な変化を求めず現状を見据え、将来の飛躍に向けて誠実に堅実に着実に計画を練り遂行してゆくことが大切な年となる。

「六白金星」年の過去200年間の出来事

1841 天保の改革・1869 明治維新・1877 西南戦争・1904 日露戦争・1931 世界大恐慌・1940 第二次世界大戦・1949 NATO 発足・1976 ロッキード事件・1967 ケネディラウンド発効・第三次中東戦争・EC 成立・ASEAN 成立・1985 日本航空御巣鷹山墜落事故・1994 中華航空名古屋空港事故・2003 第二次湾岸戦争・2003 スペースシャトルコロンビア事故

「六白金星」年の災害について

- ◆「六白金星」は「天」の象意を持つ星であり、「天」が「腐敗・破壊・壊乱・再生」を意味する五黄土星の定位の「中宮」に位置することから、この「六白金星」の年には歴史的に数多くの飢餓・疫病・風水害が発生している。
- ◆「辛」は金星の陰、「丑」は土性の陰であり、六白金星の「天」とあいまって「天候」が強く影響する年となりそう。
納音の「壁上土」は大地の力に繋がっていないので壁土としての用しか果たせない盛り土の意味を持つので堤防の決壊などによる水害が多発する可能性がある。
- ◆今年各星の位置関係から低気圧が西南地方で多く発生し、雷も伴う恐れがあり雷災・風水害などの災害に要注意。また、火事は大火となる可能性あり要注意。
- ◆「太陽」を意味する「九紫火星」定位「離宮」に「水・冬=12月」を象意とする「一白水星」が在泊し、「大地」を意味する「二黒土星」が「一白水星」の定位「坎宮・北」に位置し、「九紫火星=太陽」が「山・冬~春=1~2月」を意味する「八白土星」の定位「艮・東北」に入る

ため、今年の冬は寒気が強まり、「水」もからむため大雪となる可能性がある。

- ◆今年の卦から見て「水と風」が絡む卦が多く台風などの暴風雨、水害、雪害、冷害、旱害による凶作に注意の年となる。
- ◆「歳破」の位置する西南の方位、「五黄殺」の東南の方位、「暗剣殺」の西北の方位は特に要注意。

「六白金星」の年の災害（過去 360 年間）

地震

1751 越後高田大地震・1769 日向豊後肥後地震津波・1895 茨城南部地震

1931 西埼玉地震・日向灘地震・2003 宮城北部地震・十勝沖地震

火山噴火

三宅島噴火・1769 有珠山噴火・1895 蔵王山噴火・霧島山噴火・1940 三宅島噴火・1994 雲仙普賢岳噴火

風水害

1670 近畿諸地方大風雨・1742 寛保の洪水（関東地方暴風雨大水害）・1778 畿内安芸暴風雨・1850 安芸国大風雨洪水・諸国大風雨（鴨川氾濫）・1895 西日本各地水害・1958 狩野川台風・近畿中部東北風水害・1967 羽越豪雨洪水・1976 長良川洪水・小豆島山津波（台風 17 号）・2012 九州北部豪雨

大火その他災害

1661 京都大火、江戸大火・1670 長崎飢饉・1724 大阪大火・1760 江戸大火・1787 天明の大飢饉・1814 諸国早魃飢饉・1832 琉球飢饉・1859 江戸山の手大火・1913 諸国天候不順凶作・1931 冷害凶作・1967 西穂高落雷遭難事故・1976 草津白根山ガス中毒事故・2003 SARS 流行・2012 MERS 流行

- ◆「六白金星・辛・丑・壁上土」の年の災害

1301 鎌倉大火・1661 京都大火・江戸大火・1841 江戸大火・駿河国地震・口永良部島噴火

生まれ年による運勢（福運を招くために本年の留意すべき事項）

※節分（2月3日頃）までに生まれた人は前年の星となる。

- ◆ 一白水星 大正 7・昭和 2・11・20・29・38・47・56・平成 2・11・20・29

- ① 前厄になるため諸事慎重かつ敏速に対処すること（先手必勝のチャンスを逃がすな）。焦りや行き過ぎは禁物。今年は後半も良い運点だが、来年は本命星が坎宮に入るため後半（8月24日以降）は衰運に向かうことを自覚し、新規の事は年の前半（8月23日以前）に行うこと。
- ② 『顕現』の象意あり、書類や印鑑の取り扱いは慎重に。特に保証事は避けるほうが賢明。約束や契約事などは、後日トラブルを起こさないように正式な書類にしておくことが肝要。

- ③ 『離合集散』の象意あり、親しい人との離別、新しい人との出会い、人事の入れ替わりなどの転勤、退職などが起こりやすい。特に目的のない退職は、身の破滅を招くことになるので慎重に。
- ④ 異性間交友が活発となる年であるがトラブルも発生しやすく、顕現作用もあることから特に既婚者は不倫が露見しやすいので要注意。自分自身を見失わず自重が求められる年となる。
- ⑤ 火難発生の恐れあり、火の取り扱いに注意すること（電気・ガス等の確認を励行する）。旅先では、非常口の確認を忘れずに、また盗難にも要注意。
- ⑥ 事業面や営業面では、表面上好調に見えても内容に乏しく安定性にも欠けるので、無駄な出費を抑え収支のバランスに気を配り堅実経営に努めること。遠方に吉があり海外旅行、内外の展示会等で見聞を広げるには好期。吉月、吉日、吉方位を求めて実施すること。
- ⑦ 健康面では、焦りや苛立ちからの精神的動揺、ストレス等が起因となり不眠症やノイローゼなど心因性の病気にかかりやすいので要注意、また交通事故や転落事故にも注意せよ。
- ⑧ 厄除け、願掛けの断ち物、又節分には家内安全、年中安泰、除災得幸などの祈願をするのも開運への一方策となる。

◆ **二黒土星 大正 6・昭和元・10・19・28・37・46・55・平成元・10・19・28**

- ① 運氣最低な『本厄』の年を自覚し、『石橋を叩いて渡る』慎重さが必要です。将来のためのエネルギーの蓄積を心掛けること。外交面より内面の充実に努めること。
- ② 交友関係、遊興関係での浪費傾向あり、収支のバランスに心掛けよ。金銭の貸借や保証事は極力避けること、また孤立に陥りやすい傾向もある（人との和を心掛け、待つ事の出来る人になれ）。
- ③ 異性問題が生じやすく、深刻化する傾向があります。今年関係をもった異性は、5年間の悪縁となって悩む恐れあり、冷静に理性をもって対処すること。
- ④ 色情の因縁から中絶、流産、死産など、水子の悪い因縁を背負い込む恐れがあります（墓参、水子供養を大切に）。
- ⑤ 病難、色難、水難、盗難、交通事故等の突発事故に注意し、精神面の落ち着き、安定を得るため信仰を持ったり、稽古事に力を入れたり、家庭生活を第一に考え、コミュニケーションに努めること。
- ⑥ 健康面では『病魔潜入』の暗示あり、日頃から健康管理の大切な年。体調も崩れやすく、古病、持病の再発や慢性化に注意すること。長引く恐れあり、早期発見、早期治療が望まれます。
- ⑦ 『本厄』の年につき、厄除けの断ち物などを行い、節分には年中安泰、除災、厄除、身体健全等の祈願を受けるのも開運の道です。

◆ **三碧木星 大正 5・14・昭和 9・18・27・36・45・54・63・平成 9・18・27**

- ① 『後厄』を自覚し、前年の低命運からの脱却を図るため、忍耐力、継続力を持って地道かつ、慎重に現状維持を基本として、準備計画をすること（後半：8月24日以降は上昇気流）。
- ② 『二黒同会』により『働く（はたらく）』を『傍（はた）楽（らく）』と考え、奉仕の精神で努力すること。
- ③ 「妻・老母」などの象意もあり、これら日頃お世話になっている人への報恩感謝が開運への道。「待つこと」「耐え忍ぶこと」「従うこと」「一步一步地道に努力すること」が未来への可能性

とる。発展と信頼の基盤を築くための準備計画の期間の年とせよ。

- ④ 契約事や約束事は、後日トラブルを起こさないように慎重に（保証事、仲介事、捺印等要注意）。
- ⑤ 親族との別れや親戚関係のトラブルが起こりやすい。年回法要、墓参等を大切に。長期疾病は祖先の因縁によるものと心せよ。
- ⑥ 健康面ではあまり良好とはいえない。持病の継続や働き過ぎによる過労に注意し、体調維持に十分注意すること。
- ⑦ 『後厄』の年につき、厄災除けの断ち物や節分の年中安泰祈願、恵方詣り、墓参等をするのも開運への1つの方法となる。

◆ 四緑木星 大正 4・昭和 8・17・26・35・44・53・62・平成 8・17・26

- ① 過去4年間の衰運気を脱し、積極的に行動できる開運の年です。但し舌禍に注意し人とのコミュニケーションを大切にし、諸事冷静に対処することです。
- ② 何事においても、即決即行が決め手であるが、準備不足や勇み足及び目先の欲や利潤のみの追求は、墓穴を掘る結果となる。自制心を大切に（足るを知る心）。
- ③ 人間関係の拡大に伴い、行き過ぎや短気、舌禍に注意し、周囲との調和と協調を心掛け、甘言に乗らないこと。また収支バランスの崩壊などの危険性もあります。
- ④ 結婚を前提とした異性に巡り合う絶好のチャンス年、真面目で心の通った交際を心掛けること。
- ⑤ 新規事業などは、以前から準備計画していた事柄なら良好。但し方位や相生・相剋（共同事業などの場合）を無視しないこと。
- ⑥ 今年は、火難、雷難の危険年です。電気やガス等の点検、管理、また焚火やタバコなどの火の後始末を確実にし「火の用心」に心がけること。
- ⑦ 健康面においては、さほど心配ないと思われるが、「何事も過ぎたるは及ばざるが如し」、暴飲暴食、過労を避けること。また「新陳代謝」を意味するところから古病、持病の再発、悪性の腫れ物などに注意すること。早期発見、早期治療が必要。

◆ 五黄土星 大正 3・12・昭和 7・16・25・34・43・52・61・平成 7・16・25

- ① 運気好調な盛運年。「信用、遠方、交流、調整、整う、喜び」等の象意を持つ福運年。
- ② 信用第一に心掛け、遠方の取引にツキが発揮されるので自信をもって行動せよ。旅行においては、自分が世話役にまわれば信用はつくが実利なし。特に派手さから予算や経費の超過が心配される。
- ③ 全ての事柄が長引く傾向あり。適格な情報を元に、即決即行で慎重に対処せよ。利潤追及のみに走り過ぎないように、奉仕の精神を忘れないよう心掛けること（世話役に好機）。
- ④ 対人運では、世話事や相談事も増える傾向がある。空約束や曖昧な態度は慎み、誠意を尽くし見返りを考えない奉仕の精神こそ大切。八方美人は慎むこと。
- ⑤ 適齢期の男女にとっては、縁談や結婚の整いやすい年。吉方からの縁を大切に、長引く傾向があるが焦らず慎重に取り組むこと。
- ⑥ 公私共に多用となり、人間関係にヒビが入りかねません。仕事と家庭と朋友との板挟みでバランスを崩さないよう、コミュニケーションを大切にすること。
- ⑦ 健康面では、季節の変わり目や疲労の蓄積、暴飲暴食に注意し、充分休養を取ること。呼吸器

や腸の象意があるため風邪やインフルエンザ、腸の病には予防をしっかりとすること。

- ⑧ 祖先の墓参（ご命日詣り）を心掛け、水子に因縁のある方は、供養を大切に。

◆ 六白金星 大正 2・11・昭和 6・15・24・33・42・51・60・平成 6・15・24

- ① 俗に言う『八方塞がり』の年、過去 9 年間の総決算の年で、反省の年と心得よ。
また 9 年周期で 10 年先までの人生設計、生活設計を立て直すのに良い年。
- ② 中宮（観心宮）に入り、静観して動かず現状維持に努めよ。運勢上の浮き沈みの変化変動の大きい波乱含みの年で、諸事結論を求められる年になります。心して対処せよ。
- ③ 先祖供養の大切な年。他人まかせにせず、自ら上品（ジョウボン）の孝養に心掛けること（今年は特に先祖供養とお盆及び彼岸等の供養を大切に）。
- ④ 事業面や営業面では、五黄土星の悪影響（五黄同会）を受け、好不調の落差が大きき的確な判断力が必要。強情、強欲の面があるので自制心を大切に、また新規の事業や計画の実施は慎重さが必要。
- ⑤ 10 月の「六白金星」の日（10/16、10/25、11/3）は、9 年に一度の大切な盛運日として活用すること（開店、改名、襲名には吉）また健康診断にも最適な日。
- ⑥ 健康面は、体調の変化を生じやすい傾向がある。持病、古病の再発、また病氣治療中の人は、悪化しやすい傾向があり、過労からの疾病に要注意（自宅療養より、短期吉方位の診療）。また交通事故、突発事故等にも注意。
- ⑦ 『命厄』の年につき、節分には厄除けの断ち物などを行い、自身を歓苦型人間に磨き上げること。

◆ 七赤金星 大正 10・昭和 5・14・23・32・41・50・59・平成 5・14・23

- ① 運気充実して、強運の年。力量を発揮し積極的に行動できる年ですが、暗剣殺のため強引は禁物。奉仕の精神で諸事焦らず、慎重に対応するように心掛けること。
- ② 独断専行を慎み、人間関係の和に努め、先輩や有識者の意見、助言、忠告に耳を傾け、また部下の意見も受け入れる心の広さと余裕を持つこと。
- ③ 公私共に多用（その割には実利なし）となり、人間関係にヒビが入りかねないので仕事や家庭でのコミュニケーションを大切にすること。
- ④ 経済面は、投資や大口取引には現状を見極めて慎重に進めること。高級なもの、高価なものに目が行きがちとなるので予算超過とならぬ様、収支のバランスに注意すること。
- ⑤ 稽古事や趣味を活用して、新知識を求めるのに好機です。老後の為に学ぶ姿勢を大切に、生涯学習の趣味を求める心掛けを持つこと。
- ⑥ 今年は特に仏壇、仏具、墓地の手入れ、新調には最良年。また仏壇の修理、リサイクルするにも良好な年です。仏事法要、墓参など大切にすること。
- ⑦ 健康面では、心身の疲れや神経の乱れる傾向があり、睡眠と休養を取れるように心掛けること。又、交通事故、転落事故、突発事故等にも注意。

◆ 八白土星 大正 9・昭和 4・13・22・31・40・49・58・平成 4・13・22・31

- ① 喜びと不安の両面を兼ね備えた年で、運気も後半より衰運に向かうので舌禍に注意し、慎重かつ迅速に対処すること。

- ② 新規事業や計画の実施は延期し、現状維持に心掛け、堅実経営に専念すること。但し、以前から計画していた場合は年の前半までは実施可能。
- ③ 金運には恵まれるが、出費オーバーの傾向あり、収支のバランスに心掛け、事業面や営業面では緊縮財政で堅実経営に努めること。
- ④ 人間関係も拡大傾向にあり、異性との出会いも多い年。但し、トラブルも発生しやすいので他人まかせにせず、冷静に対処すること。独身者は、結婚の好機、出会いを大切に。
- ⑤ 趣味、稽古事など、自己研鑽に励むこと、学びの姿勢を豊かに。
- ⑥ 新築、増改築、開店、開業、建碑、建墓、移転、旅行等は、8月23日頃までの前半に実施すること。できれば来年に延期した方がよい。
- ⑦ 健康面では、不摂生から体調を崩しやすく、心身の疲労、暴飲暴食を慎み、健康管理と休養に心掛けること。交通事故、刃物による怪我、災難に注意。

◆ 九紫火星 大正 8・昭和 3・12・21・30・39・48・57・平成 3・12・21・30

- ① 良宮（変展宮）に入り、変化変動の生じやすい不安定な年。何事にも惑わされず、現状維持に努め、冷静沈着に対処する心構えが大切。
- ② 先祖供養・年回法要の大切な年（過去帳を調べよ。年忌該当のご先祖様がいらっしゃるはず、自分自身で盛大に法要を営むこと）。但し、建碑、建墓、仏壇の新調は避けること。
- ③ 事業面や営業面でも運気が流れが変化し停滞する年であり、後日トラブルを起こさないように契約文書、捺印等の確認を怠らないこと。友人・知人といえども金銭の貸借は慎むこと。
- ④ 対人関係では、仲介、仲裁、訴訟、調停沙汰などの一切の揉め事は極力避け、和に心掛けよ。
- ⑤ 家族間、親族縁者間のトラブルが起りやすい傾向あり、互いにコミュニケーションに努めること。
- ⑥ 異性関係においても、変化変動を生じやすい年です。恋愛中の人にとっては心変わりや、既婚者にとっては不倫の危険性がある。腐れ縁とならないように区切りをつける年。
- ⑦ 健康面では、持病の再発、自律神経疾患、胃腸、関節関係疾患、原因不明の病名と病気に注意。また交通事故、転落事故、火災などによる怪我、打撲傷などにも注意すること。特に山岳事故に要注意。
- ⑧ 今年の疾病は、先祖（水子も含む）の因縁を受けているので、年中行事の仏事には率先協力し、彼岸・盆・命日など忘れぬよう、節分には厄除け、除災、身体健全等の祈願及び断ち物をする事。

* 「易は 当たるも八卦・当たらぬも八卦」とご承知ください。

- 参考文献 「運研 井上慶亮氏」 「易経講和 公田連太郎氏」
「干支の活学 安岡正篤氏」 「易学入門 安岡正篤氏」
「マーフィの易占い ジョセフ・マーフィ氏」 「陰陽道 長原芳郎氏」
「高島易断所 高島吞象氏」 「日本の自然災害 国会資料編纂会」
「日本史総合年表 吉川弘文館」